

食を通して笑顔をつなぐ 地元企業の熱意と使命



地域の美化活動に参加している従業員の皆さん。CSR活動を通して、職場での一体感も生まれた。

環境問題と真摯に向き合い 地道な企業努力を推進

24時間、365日、人々の暮らしの身近にあるコンビニエンスストア。業界最大手、セブンイレブンの店頭には並ぶ麺類をはじめ、多彩な軽食と総菜が地元の企業、タママラデリカ株式会社で作られているのをご存じだろうか。「今から30年前の1991年6月、北関東エリアにおけるセブニーイレブンの店舗拡大に伴い、当社が創業されました」。説明してくれたのは、同社の代表取締役社長、小島尚之さんだ。セブニーイレブンの店舗数が増えると共に事業を拡大し、人々の安全で便利な食生活を支えてきたとほほ笑む。

大手コンビニエンスストア、セブニーイレブンの調理麺や軽食、総菜などの製造・開発をはじめ、道の駅・玉村宿を運営するタママラデリカ株式会社。代表取締役社長の小島尚之さんに取材した。



タママラデリカ株式会社
代表取締役社長 小島尚之さん

これらの活動を商品づくりにも生かしたいと考え、セブニーイレブンの共同開発で、とろろそばの包装を改良。とろろを入れるビニール袋を廃止し、仕切り型にしたところ、この便利さが消費者に好評となり、ヒット商品を生み出した。

「職場での取り組みが商品開発にも生かされ、従業員の意識改革やゴミの削減、経費節約につながったことは、大きな気付きとなりました」と小島社長は話す。

地域の人々に寄り添う 持続可能な体制づくり

現在、栃木県や茨城県にも工場を持ち、約720人の従業員を抱える同社。2006年に農業生産

稼働し、子育て世代が安心して働ける体制を整えている。

同託児所の大きな特徴は、食育に力を注いでいること。時には親子で参加できる農業・収穫体験なども開催し、従業員同士のコミュニケーションの場としても活用しているそうだ。

一方、コロナ禍のなか、地域の人々を支えるための新たな活動も始まった。アルバイト先の飲食店が休業し、困っている学生をサポートしたいという行政からの要望に応え、食料品の無料提供や、アルバイトの受け入れ体制を整えた。

この活動を機に、地元のフードバンクと協力した在留外国人や、医療従事者への感謝を込めた食料支援も実行。「地域の一員として少しでも地元の皆さんのお役に立てることができ、従業員たちも喜んでいきます」と小島社長は笑

タママラデリカが取り組む 地域貢献の一部を紹介



1) 従業員専用の託児所FACE。毎月旬の食材を使った食育イベントも開催している。2) 自社農場TGFを開放して行われた中央小学校の農業学習。3) コロナ禍で困難している群馬県立女子大学の学生を支援するために開催された食料品等の無料配布にも協力。4) 新型コロナウイルス拡大のなかで尽力する医療従事者に感謝を込め、角田病院へ食料を無償提供。



自社農場で栽培されるネギや小松菜、サダほうれん草などは、商品の具材に使われる他、道の駅・玉村宿でも販売

スパイシーで酸味のあるソースが決め手の焼きそばは、ボリューム満点

群馬県産の上州地粉を100%使用した、野菜たっぷりのおきりこみ

Information
タママラデリカ株式会社

佐波郡玉村町上福島 611-1
TEL.0270-65-0711

WEBはこちら



App Store からダウンロード
Google Play でインストール
「フリモAR」を検索
※AppleおよびAppleロゴは米国その他の地で登録されたApple Inc. の商標です。App StoreはApple Inc. のサービスマークです。Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です。